



ふじみだい

校長 田村 憲一

「令和8年熊本地震」ならびに「令和8年8月千葉豪雨」に際し、心よりお見舞い申し上げます。夏休み真っ只中の子どもたちの気持ちやそれを気遣いながら日々の復旧作業に追われるご家族のお気持ちを思うと心が痛みます。一日も早い復旧と皆様のご健康をお祈り申し上げます。

「うわあ～、自然だあ～」

6月に、5年生と御殿場宿泊体験に行ってきました。その二日目の朝、宿泊棟の玄関を開けた子どもが、思わずこんな声を上げました。目の前にはちょっとした森があり、鳥の声が聞こえます。「大自然」ではないかもしれませんが、いつもと違う自然いっぱいの風景に心が動いたのでしょう。

富士山に向かうバスの中では、担任と子どもたちとの素敵なやり取りも聞こえてきました。「朝、鳥の声聞こえましたか?」「聞こえた!聞こえた!」「どんな鳴き声でしたか?」「カーって言ってた!」「カラスやないかーい!」と心の奥底でツツコミつつ、いつも聞いているカラスの鳴き声さえも新鮮に聞こえた子どもたちの感性が、少しうらやましく思えました。

マイナスの言葉を言ってはいけません

御殿場では施設のスタッフに大変お世話になりました。雨の中でも安全に楽しい活動ができるよう、細かいところまで気を配ってくださいました。

「マイナスの言葉を言ってはいけません。」これは、事前の指導や実際の活動の中で、スタッフの方が何度もお話されていたことです。「『疲れた』『暑い』『帰りたい』…こんな言葉が聞こえてくると、楽しく活動している友達まで嫌な気持ちにさせてしまいます。」「全体の士気が下がり、けがや事故の原因にもなります。」そんなふうに話されました。それを聞いた子どもたちはどうだったのでしょうか。雨の「ふじさんぽ」は、なかなかタフでした。たしかに先頭集団を、スタッフと一緒に歩く(走る)子どもたちは元気いっぱいです。プラスの言葉であふれています。しかし、全員が元気いっぱい夢いっぱいというわけにはいきません。体調のすぐれないお子さんだっています。そんな子どもたちが、「は～、疲れた」「もう帰りたい」とつぶやいているのを見て、失礼ながらちょっとうれしくなりました。「マイナスの言葉」を言わずにはいられない状況と、守らねばならぬスタッフの教え。その板挟みの中、他の人に聞こえないくらいの声で(または聞こえても大丈夫な人に向かって)つぶやく姿に、たくましさとしなやかさを感じました。

さて、私自身もスタッフの考えには大賛成です。できることならば、マイナス言葉を言わないように心がけています。立場もありますし…。でも、「もうだめ～」って言ってしまえば楽だろうなと思う時だってあります。そう考えると、マイナスの言葉も弱音も泣き言も全部ありかもしれません。どれもその人の思い(不満とか欲求とか生きづらさとか)を、その人らしく表現した大切な一言だからです。疲れた時には「疲れた～」と言えること、やりたくない時は「やだ～」と言えること、暑い日には「あつ～い、とける～」と言えること。これって幸せに生きていくうえで大切な力だと思います。富士見台小学校は、大人も子どももマイナス言葉が言える、言っても大丈夫な場所であってほしいと思っています。私も、子どもが「疲れた～」と言ったら、「ほんとに疲れたね」と言えるようになりたい。そうすれば、その子は5回に1回くらいは「うん。でももう少しがんばってみようかな。」と思えるかもしれません。そしてそんな子はきっと、誰かのマイナス言葉に「そうだね。つらいよね。」って言ってあげられる人になっていくのだろうな。